

授業科目	比較文化と国際理解				単位	2				
履 修	選択	関連資格	日本語教員			ナンバリング	EN10412J			
開講年次	2年	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP4-1					
担当教員	森 敦嗣									
授業概要	<p>現在、世界の多くの地域では、政治、経済、社会、文化いずれの領域においても、人、もの、金、情報が国境を越えて自由に行き交うのが当たり前の世の中となっている。そうした状況をグローバル化という言葉で表しているのは皆さんもよくご存じだろう。それは日本も例外ではない。現在の日本社会は日本人だけでなく他の国々の人々が当然のように共に暮らすのが当たり前の社会、いわゆる多文化社会になりつつある。こうした社会に生きる私たちにとって、文化的背景の異なる人々と接触し、交流することは珍しい出来事ではなくなってきている。</p> <p>しかし、その一方でグローバル化や多文化社会には問題が多々あり、必ずしも理想的な社会とは言い難いのも事実である。異なる文化があるところには摩擦や誤解が避けられず、自分とは違うものへの憎しみは争いを生む。地域によっては紛争やテロへとつながっているところもある。このような現実に対して人々に求められているのは、自分と異なる価値観や文化を持つ人々への寛容と理解だといわれている。だがそれだけでなく、そもそもなぜ異文化間で対立や争いが起こるのか。その根本的な要因を知ることも現代の私たちの課題といえるだろう。</p> <p>本講義ではこうした課題を踏まえ、文化の特徴と性質、異文化間の関係、異文化コミュニケーション、そしてグローバル化の現状と問題点といった項目に焦点をあてながら授業を進めていく。これらの内容について学ぶとともに学生の皆さんには自分たちと価値観の異なる人々との関係のあり方について改めて考えてもらいたい。</p> <p>なお毎回の授業ではパワーポイントを使用し、レポートも適宜実施する。</p>									
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 異文化理解についての基本的な知識と用語を理解し説明できる。 異文化への理解を深め、多文化社会について自分の意見をもち、論理的に述べることができる。 									
達成度評価										
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考		
総合評価割合	50	0	35	0	0	15	100			
知識・理解 (DP1-1)	40		20				60			
知識・理解 (DP1-2)										
知識・理解 (DP1-3)										
知識・理解 (DP1-4)										
思考・判断 (DP2-1)										
思考・判断 (DP2-2)										
関心・意欲 (DP3-1)										
関心・意欲 (DP3-2)										
態度 (DP4-1)	10		15			15	40			
態度 (DP4-2)										
態度 (DP4-3)										
技能・表現 (DP5-1)										
技能・表現 (DP5-2)										
技能・表現 (DP5-3)										
具体的な達成の目安										
理想的レベル					標準的なレベル					
異文化への理解を深め、多文化社会やグローバル化の現状と問題点について自分なりの意見をもち、他の人に論理的に説明できる。					全体の授業を通し異文化理解についての基礎的な知識と用語を理解し説明できる。					

授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション ・授業の概要と評価方法について	講義	講義内容の確認	30
2	異文化を理解する ・異文化交流の歴史と意義	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
3	文化について① ・文化の定義、文化の特性、文化の構造	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
4	文化について② ・多文化主義の概要と理論、その意義について	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
5	自己とアイデンティティ ・自己概念、社会的・文化的アイデンティティの特徴	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
6	異文化コミュニケーションの障壁 ・障壁の種類、偏見はなぜ生まれるのか	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
7	差別について ・差別の種類、差別が生まれる背景	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
8	言語コミュニケーション ・言語の構造、言語メッセージの意味と用法	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
9	非言語コミュニケーション ・非言語コミュニケーションの性質と機能、種類	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
10	日本における英語化政策の現状と問題 ・教育現場における英語偏重を考える	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
11	カルチャーショックと異文化適応 ・カルチャーショックの特徴と異文化適応のプロセス	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
12	世界の価値観、異文化受容 ・個人主義と集団主義、異文化受容の段階	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
13	対人・異文化コミュニケーション ・異文化の友人との関係構築と課題、異文化コミュニケーション研究の特徴、領域	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
14	グローバル化とアイデンティティ ・アイデンティティの画一化、喪失	講義(場合によっては映像)	復習:該当部分の復習	60
15	全体のまとめ ・本講義全体の総括、試験対策について	講義	これまですべての講義の復習	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				

22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	予備的な知識は特に必要ありませんが、テレビやインターネットで関連のニュースを見ておくことを推奨します。			
テキスト	テキストは特に指定しません。配布するレジュメとパワーポイントを使って授業を行います。授業内容によっては映像をみてもらいます。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	青木保『多文化世界』(岩波書店、2003年) 原沢伊都夫『異文化理解入門』(研究社、2013年) 施光恒『英語化は愚民化——日本の国力が地に落ちる——』(集英社、2015年) アンドレア・センプリーニ著(三浦信孝・長谷川秀樹訳)『多文化主義とは何か』(白水社、2003年)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	配布プリントの整理は心掛けてください。授業を休んだ場合は休んだ授業のプリントを必ず取りに来てください。 TVのニュースや新聞に日頃から目を通し政治や社会と言った分野でどんなことが話題になっているのか常に注意しておいてください。 授業によっては提示したテーマについてレポートに書いてもらうこともあるので、自分の意見を明確に述べられるようにしておいてください。 授業妨害となるような私語や携帯、SNSの使用は厳禁です。場合によっては退室させます。			
達成度評価に関するコメント	試験及び、レポートの内容については、授業の中で指示します。試験 50%、レポート 35%、その他(授業への態度や姿勢) 15%で評価を行います。			